

なじむ感性

小高大輝 吉田宏昭（信州大学）

1. はじめに



野球少年だった私にとっての「グローブ」

新品

- ・心が躍るモノ
- ・捕球しづらい

使い込んだモノ

- ・なくてはならないモノ
- ・抜群の使い心地

グローブがなじんだ

一言で「なじむ」と言っても・・・

手になじむ、靴がなじむ、職場になじむ、なじみの客 etc.... ➡ 様々な「なじむ」が存在

目的

「ヒト」と「モノ」との関係性の中の「なじむ」に着目。

「なじむ」を紐解き、その価値を見出す。

2. 「慣れる」と「なじむ」

■ 慣れる：違和感がなくなる、習熟する

主語

対象

「ヒト」が「モノ」に慣れる



(例) グローブの扱いに慣れる

■ なじむ：ひとつにとけ合う、調和する

主語

対象

「モノ」が「ヒト」になじむ



(例) グローブが手になじむ

「ヒト」から「モノ」へのアプローチ

「モノ」から「ヒト」へのアプローチ

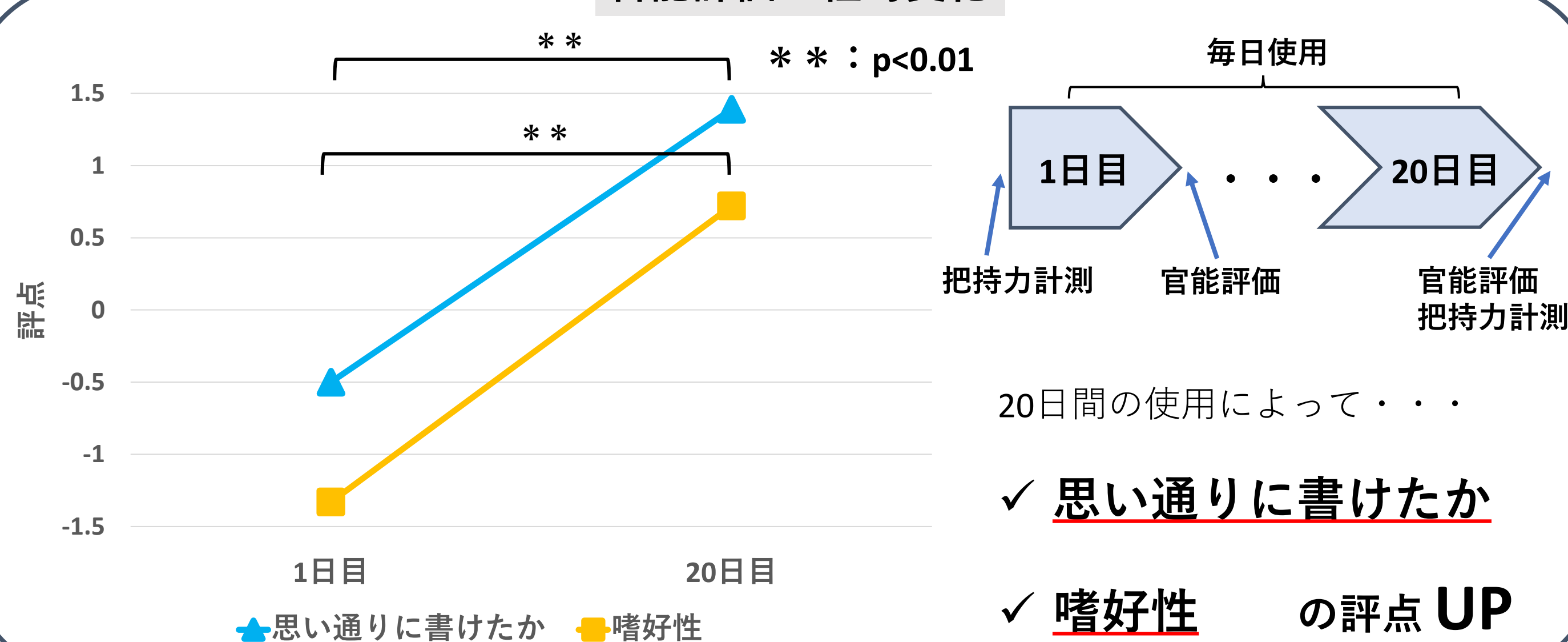
3. 事例

□ 慣れる：シャープペンシル

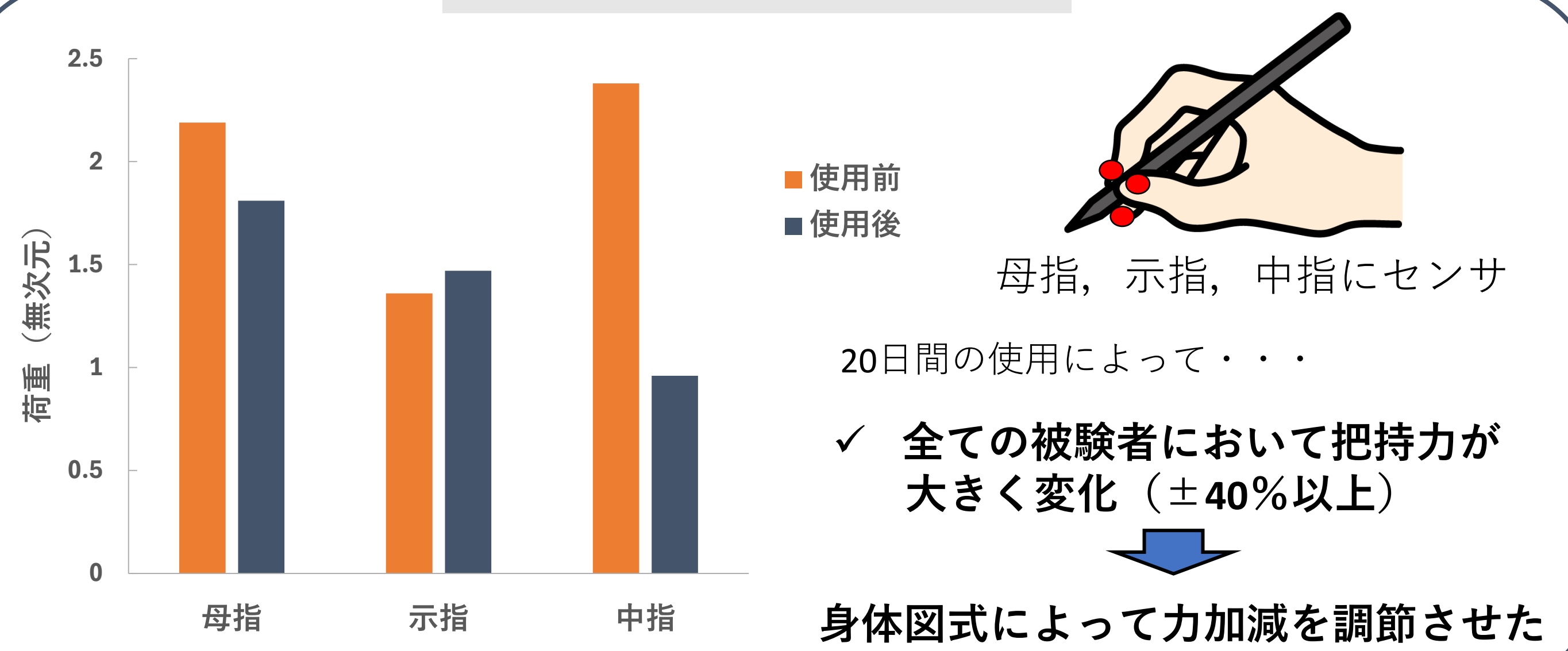
ペンを20日間使用した際の印象評価と把持力の経時変化

・被験者：大学生10名 ・試料：各被験者が今まで未使用のペン

官能評価の経時変化



ある被験者の把持力の経時変化



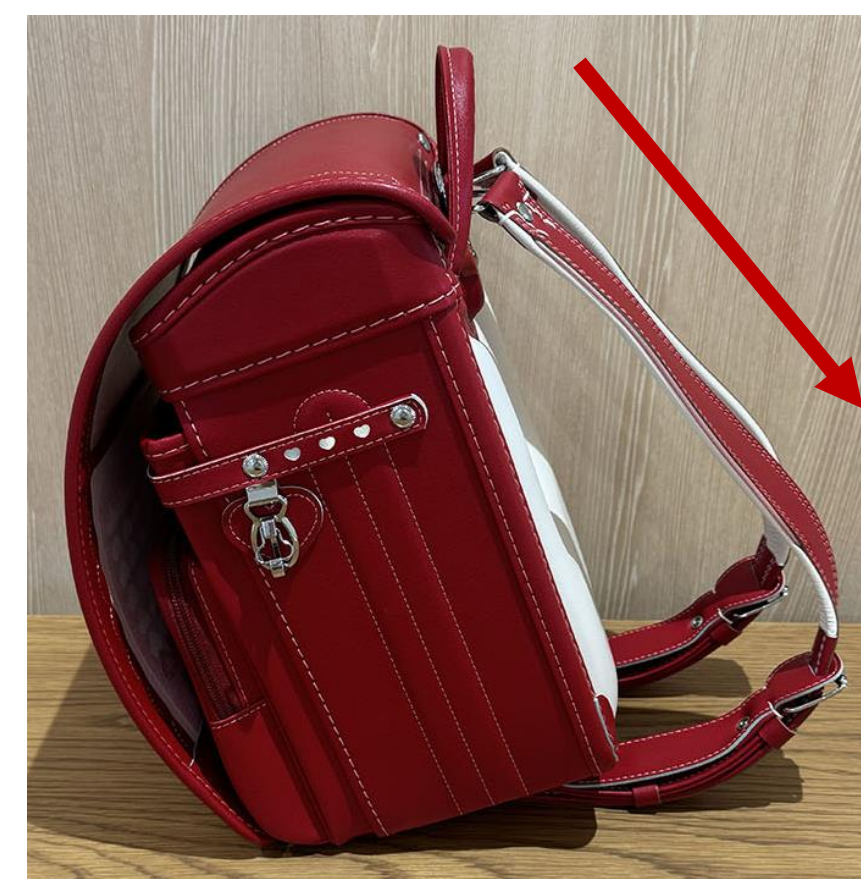
書きやすくなった!!

「ヒト」が「ペン」に合わせて把持力を変化

「ヒト」が「ペン」に慣れた

□ なじむ：ランドセル

ランドセルの経年変化



新品



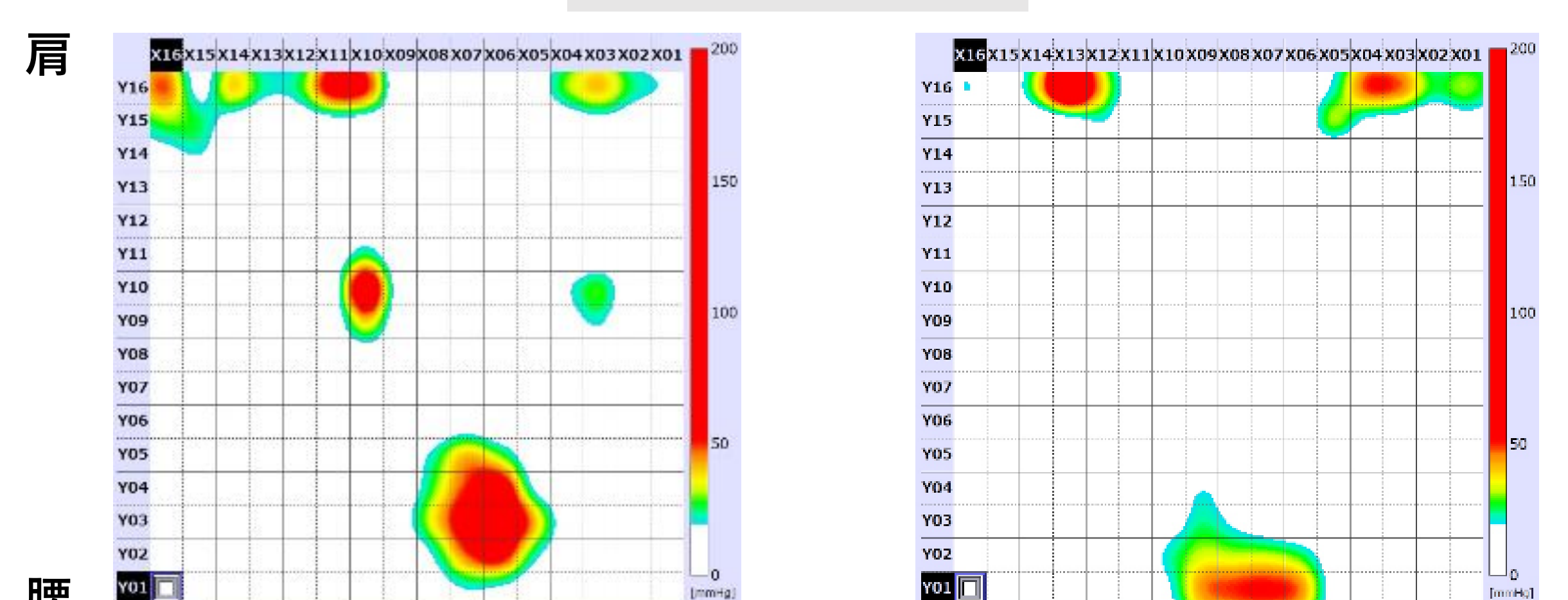
6年間使用後

ランドセルを背負い歩行した際の体圧を計測

・被験者：小学生3名 ・試料：新品と自分のモノ



肩と背中中の体圧分布



新品

自分のモノ

✓ まばらで安定しない分布

✓ 肩と腰に安定して分布

しっかり!!

「ランドセル」が「ヒト」に合わせて形状を変化

「ランドセル」が「ヒト」になじんだ

4. 今後の展望

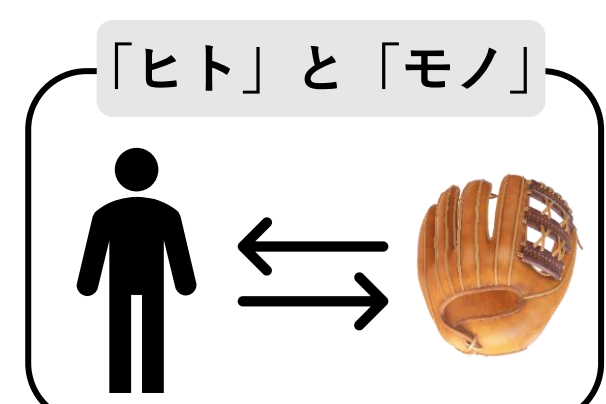
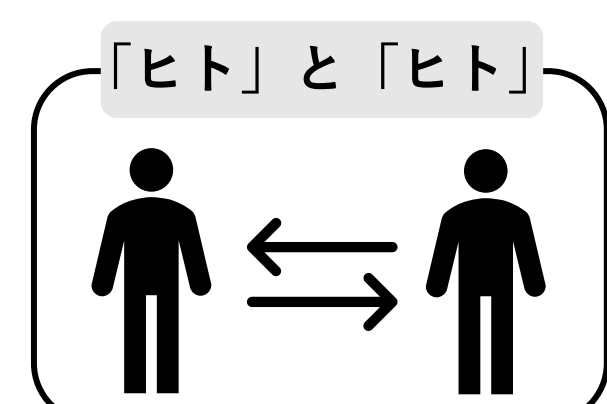
◆ 「対象」が「ヒト」になじむ

例 靴が足になじむ

◆ 「ヒト」が「対象」になじむ

例 (ヒトが) 職場になじむ

「ヒト」と「対象」の双方向的アプローチが想定できるのでは!?



「ヒト」と「対象」がなじむ

5. おわりに

「ヒト」→「モノ」のアプローチ ➡ 扱い方の習熟、愛着

「モノ」→「ヒト」のアプローチ ➡ 自分専用カスタマイズ

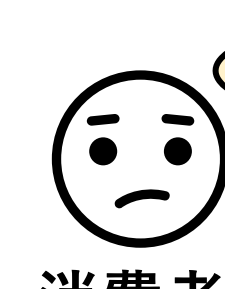
モノの溢れた現代において

1つの「モノ」とより長く、深い関係性を築く

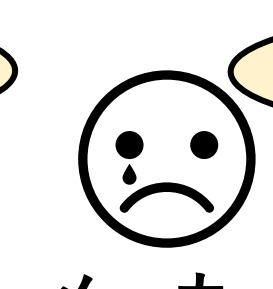
そのためには・・・

◆ 「モノ」の価値

使用後の「なじむ」ことまで考えた展開
しかし・・・



イマイチだな



マジか・・・

◆ 「ヒト」の感性

感性：情報のやり取り、関係形成能力

何かになじみ、なじみを感じる

「なじむ感性」

を育む

